

特色ある教育活動

日本教育会奈良県支部長 **中澤 弘**
(聖心学園中等教育学校長)

一 中等教育学校の設立

「奈良県中南和地域に中高一貫校を…」との要望に応え、平成十五年四月に完全中高一貫制の聖心学園中等教育学校を開校、九年目を迎えました。三期生五〇名を送り出したばかりの若い学校で、大学進学実績については、昨年末の週刊ダイヤモンドで全国大学合格力ランキングに“伸びるお得な学校”として掲載、注目されました。



一日の始まりは、わが道場への一礼から始まります。

二 建学の理念

開校に当たって「道徳の伴わない知識は害あつて益なし」の知徳合一の精神を柱として、「学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位ある人間育成」(智・礼・仁)を教育方針として、「基本的な生活習慣の確立なくして学力の向上はない」との信念のもと、規範意識の高揚と躰指導の徹底を期して参りました。

(一)道徳教育の教科化

開校当初から「徳育」を授業に位置づけ、この指導に専門教員を配し、道徳教育の充実による人間育成を何よりも優先させ、学力の伸びを期しております。

(二)論語講読の授業化

一年生から六年生までの全学年が同じ教材で週一回、徳育の授業とは別に、論語講読の時間を設定。この短い文章を暗誦させ人間としての倫理観を身につけさせます。

(三)校舎は道場

学校は教育の場であり、校舎は修練の道場であります。生徒は校門前で校舎に一礼をして今日一日の勉学の誓をすることから始まり、下校時は今日の成長と無事終えた感謝の一礼をして帰途につきます。

三 学力の向上対策

(一)年間二七〇日の授業日確保
学力向上の最も大切な要素は生徒の学習量と集中力です。本校では年間二七〇日の授業日を厳に確保し学習指導に当たられます。

(二)居残り学習の重視

授業時間の終了後、居残り学習に入り、復習・予習等を行い、二〇時には一斉に下校。この自主学習時間こそ大切であります。

(三)多彩な学校行事

・**体験の日の設定**
本校では豊かな情操と探究心を身につけることを目的として、文化・芸術・科学等の各分野で鑑賞や研究、受講等年間八回の体験学習を実施

・**スペイン・オランダへの十日間の海外修学旅行(四年生)**

・**必修クラブの授業化**

前期課程(一年〜三年)の全生徒

が体育系クラブに選択的所属。週一回の必修クラブ授業の実施

四 大学受験対策の早期化

四年生から文系と理系のクラスに編成し、積極的に目標の大学訪問をさせるなど進学に向けての刺激の早期化をはかります。

五 今後の学校経営

少子化と公立高校無償化で、厳しい私学経営を余儀なくさせられておりますが、これの生き残りには、何よりも世間の期待と親の信頼に応えなければなりません。そして建学の理念を貫くことが、私の使命であります。

(一)道徳と進学に特化

道徳に裏打ちされた生徒の学力向上と、大学合格実績こそが本校の生命線。この実現に、完全六年一貫制の優位性を最大限活かして授業の能率化をはかり、学習効果をあげ、先進校に少しでも近づく努力を重ねて参ります。

(二)私の信条

- ・常に勝ちに行け、守りに入れば敗北
- ・生き残るにはブランドになれ
- ・評判こそが最善の紹介状なり